◎運河保存を紙芝居で

- 一般市民の生活感情と隔離したところに運河保存運動があるのではないか、運河問題の政治的対立ばかり強調されて、運河を守る会の主張が一般市民にまで届いていないのではないか。

- 目に見える、わかりやすい形で市民に運河保存を訴えることはできないか。

◎昭和55年8月
道都市計画地方審議会で、全国から集まった運河埋め立て反対の意見書1300通を黙殺
異例の挙手採決で道原案を認可する

◎昭和55年9月
運河を守る会など、「運河美化」「石造倉庫再利用」などを目指す7つのプロジェクトチームを発足
運河を守る市民集会でプロジェクトチーム発表
この集会で、「紙芝居チーム」の提案あり(境先生)

◎昭和55年10月12日
運河コンサート(第1回目)

◎昭和55年10月19日
運河コンサート(第2回目)

◎昭和55年10月20日～10月23日(のべ4日間)
紙芝居 ニャン太の大冒険製作

昭和55年
◎10月24日 妙見市場、市役所前で第1部「ニャン太の大冒険」初演
メンバー、中 松岡 他2名 観客75人
☆NTV「ニッポンレポード」の録画

80102
ニャンタの大冒険

「運河守ろう」紙芝居

小樽よい町、若者ら訴え

小樽の街のよさを語りかける紙芝居＝21日、小樽市役所前で

小樽市に紙芝居がやってきた。小樽運河を守る運動をしている若者たちの手作りで、二十四日から街角を回り始めた。紙芝居の題目は「ニャンタの大冒険」。運河を守る運動の一環として、ネコの「ニャンタ」の目を通して、小樽の街のよさを訴えている。

小樽運河を守る会や、小樽夢の街づくり実行委員会などのグループは先月二十七日、「運河を守る市民集会」を開き、今後の保存運動の進め方について話し合った。その中で、市民に具体的に訴えていくとして①運河美化②住宅ペンキ塗り③朝市復興④はしけ改造、などのプロジェクトチームをつくったが、紙芝居による訴えもその一つ。

「ニャンタの大冒険」は二十枚。小樽市富岡二丁目、飲食店手伝いの松岡勤さん(三8)がストーリーを考え、毎日十人から十五人の若者が、ボール紙に絵をかいたり、木ワクを作ったりして、一週間で仕上げた。

ストーリーは、土蔵の中で育ったネコのニャンタが街へ出ていって、いろいろな見聞をするというもの。富岡教会や、小樽の特色のある建物、倉庫群などを見て「おかしな建物がいっぱいあるぞ。でも(ビルよりも)こんな建物が好きだな」。バスを見ると「みんながバスに乗れば、街に車は少なくなるのにな」。

「歩くのが好きになった」と、旭展望台から小樽の町並みや海を見たり、手宮の鉄道記念館へ行って、古い鉄道の話をきいたりしたあと、運河へやってくる。

「落ち着いた風景で、この街にふさわしい感じだな」と思う。絵をかいたり、ギターをひく人、ランニングをする人も運河へやってくる。「ネコの自分が運河が好きになったのだから、人間も運河が好きなのだな」と考え、「花壇をつくったり、ベンチを置いたりして運河をきれいにすれば、子供たちをはじめもっと多くの人が運河へやって来るだろうな」。そして、ニャンタは紙芝居を見る子供たちに「みんなも街へ出てみよう」と呼びかける。

紙芝居はリヤカーに乗せて移動する考えでいたが、リヤカーが手に入らなかったため、この日は手押し車で運んだ。妙見市場の近くで二回、市役所前で一回。一回が二十分ぐらいで、ニャンタの声で紙芝居を語るのは新聞販売店手伝いの中たるみさん(二三)。中さんはギターで客寄せもする。

今後は土曜、日曜を中心に街を回ってもらうという。